

豊島区家庭教育推進員による子育てまちづくり計画策定

西村美東士

1. 目的

「子育てまちづくり」を実現するためには、「まちづくりはあなたまかせ」わが子の問題解決のための学習→自分の子育て行動に対する気づき→自分自身や家族関係に対する気づき→親の会や地域社会における実践的学習→子育てまちづくりへの参画」という発展段階に沿った子育て学習の推進が求められる。

そこで豊島区家庭教育推進員の毎月の集合学習の場を利用して、推進員である母親たちに対して、各地区における「子育てまちづくり計画」の策定を指導し、その経過と成果を検討する。

そのことによって、親や市民の参画による子育てまちづくり計画策定の意義と方法を明らかにする。

2. 方法

分析は、指導者の活動(発言内容、資料提供、ワークショップへの介入内容)、推進員による評価(アンケート)、計画策定成果等を対象に行った。

3. 経過

家庭教育推進員とは、各区立小学校から委嘱された保護者によって、家庭教育に関する学習活動を行う豊島区独自の制度である。その概要は資料1のとおりである。

学習プログラムは、表1のとおり進行させた。第1回のレジュメで筆者は、次のようにワークショップの意義と方向性を示した。

一般のPTA会員等は、まちづくりへの具体的な展望もなく、与えられた仕事をただこなしているだけ。「子育てまちづくり活動」は、行政や一部の「熱心な人」だけによって行われているという状態が続く限り、いくら政府や自治体が生育で支援に資金等を投入したとしても、本当の「子育てのまち」は実現できない。また、その「子育てまちづくり活動」の点検や評価も、一部の人の独善に基づいたあいまいなもの

になってしまう。

これに対して、クドバスを活用して作成した「必要事項リスト」は、「わが街子育て環境改造計画」のそれぞれの到達目標が、計画した推進員の側にも、一般のPTA会員などの側にもはっきり見えるものになる。そのため、「子育てまちづくりへの市民参画」の道筋をよりいっそう具体的に明確にすることができる。また、これに基づいた「子育てまちづくり活動」は、一般のPTA会員等の納得のもとに行われることになる。

さらに、たとえば、ここで計画した「わが街子育て環境改造計画」に基づいてPTAで講座を計画する場合、特定の到達目標を達成するための「必要能力」を2時間ぐらいかけてリストにするワークを参加者といっしょになって行うとよいだろう。それをもとに「必要能力」を確実に習得できるような講座のカリキュラム(学習内容・方法)を編成する。そうすれば、参加者がたんなる参加者ではなく、自分の参加する学習会の企画にまで参加するということになる。そういう活動の積み重ねによって、「子育てまちづくり」への市民参画は実現すると考えられる。その活動は、きっと「楽しい活動」になるだろう。「やらされている」のではなく、「自分も参画している」のだから。

4. 結果

第1回の講演で講師主導型の「クドバス」を行い、全員の発言を集約した結果として、クドバスチャート「豊島区子育て環境整備のためのアイデア」を表2に示す。

表2から、「安心」、「交流」、「自然」、「楽しさ」の4要素が、初回に確認されたことがわかる。

なお、筆者は、この結果に対して、「冒険教育」がもつ教育的効果について説明し、推進員の検討を促した。

資料2に「平成18年度豊島区家庭教育推進員学習発表会式次第」を示した。本資料には、各グループのテーマが示されている。

本発表会では、各グループの「子育てまちづ

くり」の計画策定活動において、次のような体験と気づきが報告された。

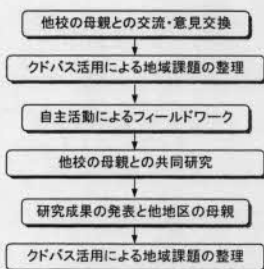
地域の公園の木が生い茂っていて、見通しが悪く、子どもの安全上、問題があると判断した。そこで、初めての体験だが、行政の公園所管部署に問い合わせたところ、次の日には剪定してもらえた。また、反面、緑化の観点からは、無制限に刈り取りなどを行うことはできないことも教えてもらい、逆の視点からの問題もあることに気づいた。

表3に「平成18年度豊島区家庭教育推進員振り返りシート集計結果」を示した。

本表から検討すべきことは多いが、ここでは、次の点について指摘しておきたい。

各グループの活動において、「子育て仲間」としての交流、とくに「他校のお母さんとの交流」が大きな効果をもたらしている。それは、本事業に一番批判的回答であったと思われる推進員29でさえ、「他校との交流」を意味あることとしてとらえていることから明らかである。

各グループの研究成果発表までの代表的な流れを下図に示す。



5. 課題

本事業の結果から、講師は、母親たちによる「子育てまちづくり計画」策定の意義と課題について資料を作成し、推進員に配布した。これを資料3に示す。

また、資料3に添付した図を資料4に示す。これは、目標達成型の子育てまちづくり活動を実現するために推進員に提起した課題である。われわれは、ネットワーク型を超える活動のあ

り方を検討する必要があると考える。

また、表3に示された推進員各人の気づき過程や阻害要因については、より詳しく検討したい。そこでは、個人の学習の側面から、活動のあり方を検討する必要があると考える。

とくに、表3の最後に示した「安全冒険公園」を計画したグループの母親の「安全冒険公園を作りたい→予算がなくてできない」(25)、「実現できないのに、話し合ったり勉強したりするのは必要なのでしょうか?」(26)という記述については、一般の親たちが「子育てまちづくり」に参画する場合の、重要な課題を表していると考ええる。

従来の親教育の研究において、「学習成果の社会還元」の重要性については認識されていたといえよう。しかし、自分たちの学習成果である「安全冒険公園づくり」などの提案を現実化して社会還元としての成果に結びつけるためには、行政や関連機関との協働に向けた学習が、さらに必要になる。このことから、親の学習という自己形成の営みと、学習成果のまちづくりへの反映という社会形成の営みが循環し、一体化して行われる動的構造を明らかにしていく必要があると考える。

資料1 家庭教育推進員制度の概要

豊島区家庭教育推進員制度(概要)

☆ 設置の趣旨

昨今の家族形態や意識の多様化、また、人口の流動が激しいなどの理由により、とすれば家庭や地域への関心や結びつきが希薄になりがちな社会状況の下で保護者たちの家庭教育への理解を深め、個々の家庭における教育力の向上を図るために設置されました。

☆ 活動内容

(1) 家庭教育の参加、奨励及び普及

- ・ 家庭教育に関する学習活動を行い、家庭教育への理解を深める。
- ・ 調査活動を通じ、地域への関心を深める。
- ・ 一年間の活動の成果を活動発表や地域活動などの形で、家庭・学校・地域にフィードバックする。

(2) 家庭教育に関する情報の提供及び交換

- ・ PTA や地域のグループなどに情報提供を行うことにより、地域に、家庭教育に関する情報交換の場をつくる。

(3) その他地域における家庭教育の振興

- ・ 家庭教育講座等の家庭教育に関係する事業への参加を促す。

☆ 推進員の活動について

- ・ 月1回程度金曜日の午前中、定例会(家庭教育に関する研修・研究のための活動日)を開催いたします(事業時間内は保育つきです。保育を希望される場合は、定例会の1週間前までに担当係までご連絡ください TEL3981-1189)。
- ・ いくつかのグループに分かれ、各グループごとにテーマを決定し、研究の成果を研究発表会にて発表していただき、報告書にまとめていただきます。
- ・ 年間の活動費をグループ単位で1万円支給いたします。活動に必要な消耗品(紙や文具など)は、区で支給します。月例会以外の日にも、必要に応じてグループ活動をすすめてください。

表1 家庭教育推進員活動日程表

回	月日	内容	会場
1	5/19 (金) 9:30～正午	オリエンテーション 基調講演「おとな学びと子どもの育ち～新しい地域のかたち」 (10:00～11:30) 講師 西村 英東士 氏 グループワーク：自己紹介・グループ名の決定など	生涯産業プラザ 地下展示場
2	6/9 (金) 10:00～正午	ワークショップ「子どもって何だろう・・・」 グループワーク：「自分たちにできること」→学習テーマ探し	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：グループごとの学習テーマ探し		
3	7/7 (金) 10:00～正午	グループワーク：学習テーマ・内容・フィールドワーク先の決定 グループごとの発表、講師によるコメント・アドバイス	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：フィールドワークの実施		
4	9/8 (金) 10:00～正午	フィールドワークのふりかえり、まとめ 自分たちになにができるかグループごとに検討	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：資料や情報の収集、調査など		
5	10/6 (金) 10:00～正午	事業や課題研究の企画に挑戦！ グループごとに発表、講師によるコメント・アドバイス	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：企画の実施に向けた準備		
6	11/10 (金) 10:00～正午	学習発表会(2月9日開催)について 報告書作成について(各グループ6ページ、1月12日提出予定) OGによるアドバイス→編集の仕方、発表の仕方など	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません)		
7	12/8 (金) 10:00～正午	グループワーク 会場の利用、保育はできますが、全体会ではありません	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：報告書の作成		
8	1/13 (金) 10:00～正午	報告書の提出内容の確認 学習発表会の準備	生涯産業プラザ 地下展示場
	*午後も引き続き会場を利用できますので、自主活動にご利用ください(午後の保育はありません) 次回までのグループワーク：報告書の印刷、学習発表会の準備		
9	2/9 (金) 9:00～正午	学習発表会 講師による総評	区民センター6階文化ホール
	次回までのグループワーク：全校配布の準備		
10	3/10 (金) 10:00～正午	1年間のふりかえり これからのことについてなどを話し合います。	生涯産業プラザ 地下展示場

表2 豊島区子育て環境整備のためのアイデア

子育て環境	機能1	機能2	機能3	機能4	機能5
安全に遊べる	安心な公園がある	公園は大人が見守っている	キャッチボールタイムがある	小公園は見通しがいい	公園には朝から子どもたちがいる
安心して生活できる	住宅地に大人の目が光っている	自転車専用道がある	通学路は安全である	まちの隅々から死角をなくす	怖い人がいない
施設を利用できる	親子児童館がある	屋外児童館がある	日祭日に子ども一人でも行ける施設がある	放課後託児がある	
地域がつながる、交流する	子育てサロンがある	子どもと高齢者と「すき間」の交流	親同士が集い、交流できる	祭りがある	かみなり親父がいる
大人が手本を見せる	人々があいさつしあう	ルール無視の大人が少ない	有害図書が目立たない	ベットの飼いや方がよい	
自然とふれあえる	花、木、野草がある	原っぱに昆虫がいる	動物とふれあえる		
親も安心して楽しい	夜間等のための病院がある	地域医療がしっかりしている	ストレス解消できる	商店街がにぎやかである	よい飲み屋がある
お金がなくても子育てできる	子育て資金援助に恵まれている				

資料2 平成18年度豊島区家庭教育推進員学習発表会式次第

大人の学びと子どもの育ち ～新しい地域のかたち～

平成19年2月9日 午前10時～午後1時於：区民センター文化ホール閉会のことば

あいさつ 学習・スポーツ課長

グループ発表

(各グループの発表後、講師の西村美東士氏より講評をおこないます)

- 1、わかば(仰高・駒込・巣鴨・清和)・・・10:10～10:30
「子どもと地域の安全おこす」
- 2、ミントキャンディ(西巣鴨・豊成・朋有・朝日・池袋第一)・・・10:30～10:50
「安心・安全化計画～理想の公園をめざして～」
- 3、スクラム(池袋第二・池袋第三・池袋・文成)・・・10:50～11:10
「コミュニティの輪を広げる～関係作りをめざして～」
- 4、WOZZ(ウッズ)!(南池袋・高南・目白)・・・11:10～11:30
「わが街子育て環境改造計画」
～休憩～・・・11:30～11:40
- 5、ハッピーエリアサークル(長崎・千早・さくら)・・・11:40～12:00
「～癒しを求めて～地域再発見計画「銭湯のすすめ」」

6、すずらん（椎名町・富士見台）
「わが町子育て支援計画」

・・・12:00～12:20

7、Happy Voice（ハッピーボイス）!!（要・高松）
「クチコミからはじまる素敵な時間」

・・・12:20～12:40

閉会のことば

学習・スポーツ課生涯学習係

表3 平成18年度豊島区家庭教育推進員振り返りシート記述内容一覧

	わたしが気づいたのは、	わたしがうれしかったのは、	わたしががっかりしたのは、	わたしにとって必要だとわかったのは、	わたしがこれから実行しようと思ったことは、
推進員 01	保護者が自ら推進する子育て街づくりの場があったこと。それによってわが町の人々の様子が気になりだしたこと。	わが町の人々に、話を聞いたところ、色々な人に出会い、色々な立場の人の話が聞けたこと。	保護者（学校内）のアンケートを集計した結果、思ったほど意見が集まらなかったこと。	この活動を、精一杯して結果を出すこと。	結果を形にし、来年度の家推の活動をさらにふくらませるお手伝いをする。
推進員 02	自分が住んでいる街の問題点が、私も含めて、みんな街のこと（情報・サービス）を知らないということ。	アンケートに協力してくれた保護者や、ともに活動してくれたグループ、また他の人の協力。	アンケートの回収率が悪かったこと。グループ内での活動に対する温度差→分担作業のバランスが崩れてしまったこと。	いろんな場で活動されている方々との出会い。また共通認識を持って共に活動してくれること。	子育てや自己啓発等、自分のアンテナに引っかかったら迷わず参加すること。
推進員 03	自分が何かをしたいのだということ。	友だちが増えた。思っていたことが話せたこと。	発表会に来てくれる人が少なかった。	継続していく力。	計画例れにしないこと。
推進員 04	区に意見を伝えることが、こんなママ達でもできるということ。	他校のママ友ができたこと。	豊島区が財政難ということ。	いろんなママ友です。字のうまい人。パソコンのできる人。発言の上手な人。私が何もできないので、とても良いメンバーに恵まれました。	学校から配られる家推活動のプリント等を、すぐに捨てず目を通します。すみません、無関心層の一人です。私も努力します。プリントを作るとき、もう少し興味の湧くようなものになると、目を通す親も少しは増えるかな？

推進員 05	公園や区のものについて、区が質問に答えてくれるということ。	他校のお母様と親しくなったことで、他校の様子を覗くことができたこと。	理想の公園を作るには、区が財政難だということ。	物事にもっと積極的に取り組もうと思う姿勢。	
推進員 06	家推の人たちは、子育てや地域のこと、学校のことなど、一生懸命な方々が多いということ。	共感できる友人ができたことです。あと、PTA 役員の方が発表会を見に来てくれたこと。自分自身と地域を見つめあう機会を与えてもらったこと。	学校から出てきた家推の役員でしたが、学校側は何も分かってないと知ったこと。	意見を言い合う場所。	交流を深めること。
推進員 07	一人一人の意見を聞いていくと、自分でも思いもよらない意見がたくさんできたこと。	他校のお母さんたちと、交流できたこと。	努力したわりに、自分たちが満足できる結果を出せなかったこと。	子どもだけに「公園に行きたくて体を動かせ」と言い続けるのではなく、自分も公園に行くということ。	もっと他のお母さん方と交流を深めること。
推進員 08	相手を思いやる心の大切さ!! グループ活動を通して、仲間の得手不得手、都合の付く日時など、全てを受け入れる気持ちが一歩の基本、土台になっているということ。	よき仲間に出会えたこと!! 誰かの批判、悪口など、マイナスの課題を出す人もいなくて、良心基準（相手の痛みを理解しようとする心）の高い、メンバーだったこと。	パソコンが苦手な自分がかかり!!	相手の立場を尊重する心!! 自分の子どもに対しても、一人の人間として、人格を傷付けないよう接すること。認めてあげることから全てが発見!?	手話教室に行きます!! 子育ての経験を活かし、障害を持つ親子の応援団になれば・・・、目標は高いですが・・・。
推進員 09	地域の細かな部分をよく知ると、意外に良い面があること。	先月、発表の場を与えられ、グループ全体で、良い形で一年間の成果が伝えられたこと。	区の催事でありながら、発表の場に区の方が最後まで立ち合っていたこと。	家庭、学校、地域、いずれにせよ、コミュニケーションを持つことが大切だということ。	ちゃんと子どもと向き合っていて、コミュニケーションを持つこと。
推進員 10	一つのテーマから感じることは、本当に様々なんだなあ・・・ということ。	色々な個性を持った友人ができたこと。発表会という大イベントに参加できたこと。	発表会に、校内の人が誰も来てくれなかったこと。	色々な価値観を持った人たちと、もっと話し、そして一緒に活動していくこと。	このグループで、今後も何か活動していくこと。

推進員 11	地域のことを考える大切さ。	他校のお母さんと知り合えたこと。	発表会を見に来た人が少なかったこと。	PTA 活動に積極的に関わること。	家推の活動内容を皆にアピールすること。
推進員 12	今まで知らなかった地域の問題点や、良いところなど、新しい発見が色々でき、自分の勉強になったこと。	最後までグループで協力しながら課題をやり遂げ、他の小学校のお母さんと知り合えたこと。	何かを変えたりするような結果にならなかったこと。	地域や社会での子育てについて考えること。	自分にできることがあれば・・・ということ。
推進員 13	テーマに沿っていろいろ考えたのですが、考えることがこんなに苦痛なんだということ。発想力など、頭がかちこちだなと思いました。	他の学校の人たちの意見が聞けたことと、今まで発表会で発表するということがなかったことで、ちょっと自信が持てるようになったこと。	4 人という少ない人数で一年間頑張ってきたのに、発表会を見に来た人の感想で、「これが一年間の成果？」という方がいたこと。	もっとこういう場に参加したほうがいいのだと思ったこと。	子育てがんばります。
推進員 14	豊島区の地域のことをよりよく知ることができたこと。	他の学校の方と知り合いになったこと。		活動を進めていく上で、いいメンバー。	
推進員 15		参加したことで、出会えるはずのない人に出会えたこと。			このような活動に前向きに協力すること。
推進員 16	担当者が大変だったなあということ。(いろいろありがとうございました)	他校に友人が増え、何とか一年やり終えたこと。	なかなかテーマが絞られず、スムーズに進めなかったこと。後半がかなりオーバーワークになったこと。	家族とのコミュニケーションと、友人・地域の幅広いネットワーク。	親の立場から、もっと意見を述べることに。
推進員 17	家庭教育推進員の存在	4 校合同で力を含わせ、アンケートを実施したり、安全マップを完成できたこと。	発表会の準備と報告書の作成に、必要な時間がとれなかったこと。	自分の意見を持ち、それを文章にしたり、表現したりできる力。	地域の安全について感心を持ち、自分でできることから実行する。
推進員 18	学校をはじめ、PTA の皆さんへ、家推の認識があまりにないこと。	他校の方々との触れ合いができたこと。	一年間やっぱりよく意味がわからなかったこと。	身近なところに目を向けてみることに。	行動を起こすこと。

推進員 19	自分たちの街はとても恵まれていること。	「わかば」メンバーと知り合え、一緒に行動できたこと。	発表会にほとんど観客がいなかったこと。	「わかば」のリーダーとして、もう少しみんなとコミュニケーションをとる機会を増やし、うまく進行すること。	作った安全マップを活用し、他の人にも活用してもらうように学校で働きかけること。
推進員 20	地元なのに、意外と知らない所が多かったこと。	他校の方と交流できたこと。	発表会の日、見ていただける方が少なかったこと。	地元にもっと目を向け、関心を持つこと。	もっと地域の方々と関わってほしいと思いました。
推進員 21	気がつかなかった危険な所がまだまだあると同時に、バトロールは協力者が多く、安全に対する環境が整っていること。	皆さんと協力し合えたこと。	駅前の環境の悪さ。駅前には街のイメージを決める顔だと思おうので、もっときれいにしたい。また、街角をもっと明るくする努力をしてほしい。	無関心層の方をどのように巻き込んでいくかということ。また、パソコンのスキルアップ。	自分の周り、身近なところからの仲間作り。
推進員 22	もっと子どもたちに関心を持つこと。地域や学校に目を向けること。	他校のママ達との交流。意外と知らない情報が分かっていたりして楽しかった。	こんな形で終わって良かったのかなあ？もっと具体的にテーマを決めて取り組めればということ。家推として何か残すようなものやることができなかったこと。	親と子どもたちの関わり、学校同士にも目を向けてみること。	子どもたち、学校と、上っ面だけでなく、もっと深い関わりを持つこと。
推進員 23	防犯バトロールについて、自分たちから子どもを守る、バトロールする、普段から気を付けて近所を見守ることが大切ということ。	毎月「わかば」のグループで集まり、学校外の友だちとお話できたこと。	グループごとの学習に、身近なものではなく、現実とはかけ離れた夢物語のグループがあったこと。	仲間、友だち、学校同士の結びつき。防犯バトロールなどで、自分たちで子どもを守ること。	地域の防犯バトロール。
推進員 24	家庭教育推進員の活動。自分が経験するまではあまり関心がなかった。	母になってまで、勉強の場が少しでもとれたこと。視野が広がったこと。		いろいろな場面にチャレンジすること。	公園にゴミが落ちていたら拾う。砂場の柵が開いていたら閉める。せっかく公園をテーマに活動し

					たので、これだけでもやっていきたい。
推進員 25	何も分からず始めた活動で不安がいっぱいでしたが、始めてみると、真剣に取り組んでいたこと。	他校のお母様と交流する機会を得たこと。同じ目的を持って活動したこと。学校間の情報交換ができて良かったこと。	公園で遊ぶ子どもたちの姿がとても少なかったこと。発表会に、学校の先生たちに見てもらえなかったこと。	地域にもっと目を向けること。	誰かがやってくれる→自分でもやってみる・・・と意識を変えてみることを。
推進員 26	クドバスは難しい。	他校の話を聞いたこと、公園の現状がわかって、行政への働きかけができたこと。		チームワーク	地域の安全にもっと目を向けようということ。
推進員 27	一人ではなかなか行動に移すことができないが、同じ意見を持っている人たちが集まれば、行動することができるということ。	自分の意見を取り上げてくれて、結果が出たこと。		同じ目標を持った仲間作り。	目標を持って行動すること。
推進員 28	最初、家推の意味がよく分からず苦労したこと。	今回家推を引き受け、他校のお母さん方と知り合えたこと。毎月の定例会のあとのランチに同じグループのメンバーと行き、子育てのことなどいろいろと話ができたこと。	発表会に来られる方が、本当に少なかったこと。家推のメンバーだけではなく、もっとたくさんの方の PTA の会員の方にきて欲しかった。	人と話をする	委員にしても「やって当たり前」、失敗すればいろいろ言われるので、何事にも前向きに実行すること。
推進員 29	税金を使って、あまり成果のない活動はもったいない。	他校との交流。	この一年間の活動で、実りがあったのは交流ができたことだけだったこと。	時間と税金を使うなら、成果がなければならぬ。	特になし。
推進員 30	「WOOZ!」で一年間活動をして、他校の方たちと話し合う中で、本当にそれぞれ色々な考えがあるんだということ。	他校の方たちと話し合いを進めていく中で、少しずつ親しくなれたこと。	グループで考えたことについて、計画したものを実現させ、結果を出せなかったこと。	みんなの前で自分の意見を発表することがなかなかできないこと。	少しずつ自分の意見を発表できるようにしたい・・・。

今年度の推進員活動を振り返って、改善点やご意見をお聞かせください。

1. テーマについて

- (1) テーマを限定して欲しかった。(身近なテーマで)
- (2) 大きなテーマだったが、悩みながらもみんなで意見を出し合い、まとめていった過程が良かった。
- (3) テーマを決めるのが難しかった。それがプレゼンの提案の段階でよいのか、具体的に実現させることが目標なのかが見えにくかった。
- (4) 家庭教育推進ということで、テーマは大きすぎない方がよいと思う。
- (5) テーマが広すぎて最初は何だかわからなかったけれど、クドバス等をすすめていくうちに、像が見えてきて形になった。同じテーマなのに、構成人員によって各班別々なものになり、研究に幅がでるのはすごい!! テーマが大きすぎたのが良い結果を生んだと思う。来年のテーマが少し絞られるようだが、その中で差がでてくるのは面白いかもしれない。
- (6) 最初は難しいテーマだと思ったが、グループで話し合い、私たちの地域にはこのような、あんなものがと意見が上がり、テーマを決めることができた。
- (7) 身近なテーマなので入りやすかったが、簡単なようで難しかった。ただ、こうしたい、あしたいというだけでなく、その意見をどう形にするか、結果を出すのが、自分にできるのか考えさせられた。
- (8) 家推で取り上げるテーマとしては、難しかったように思う。あまりにも実現するには不可能はことが多くて悩んだ。
- (9) 子育てまちづくり計画だと、実現が難しいので、地域を改善するための計画だけでなく、もっと広い範囲のテーマ(食生活改善運動不足解消ゴミの出し方など)、地域と家庭の暮らし改造計画などのほうが、発表会でも見て楽しめると思った。
- (10) テーマは最初、とても難しく感じました。でも、具体的に活動していくうちに、自分たちのテーマが見えてきた。それが夏休み前の段階だった。もう少し早い時期に自分たちのテーマが見つければ、もっと時間を有効に使えたかなと思う。
- (11) 早い段階でテーマを絞ったほうがよかったが、テーマが広すぎて絞りきれなかった。夢を挙げるのはいいが、絶対実現不可能なものに取り組んでも意味がない。
- (12) 子育て環境改善計画ということで、少し堅いイメージがあり、最初どこから考えていけばよいのかわかりませんでした。クドバスの手法も初めてだったので、少し戸惑った。
- (13) テーマが大きすぎて、結果を1年で出すのか、来年度に引き継ぐのかわからなくて、もう少し身近なテーマが良かった。クドバスにちょっと時間が掛かりすぎて、後半に時間を掛けられなかった。

2. 活動の進め方について

- (1) 皆に解かる言葉で、ストレートにわかりやすく説明して欲しい。
- (2) 月に一度でちょうどいいと思う。
- (3) 良いペースで進められたように思う。
- (4) テーマは大きいながらも、1回ごとの活動を行いながら、まとめることができた。
- (5) グループ内でたくさん話しをする機会が多かったのは、団結信頼を得てGood!! 来年も個人の結びつきを重視して、話す時間が多いほうがよいと思う。
- (6) 各グループのテーマが決まったら、すぐに進めれば後半がバタバタしなかったかもしれない。実際、私たちが活動し始めたのは、9月位からだったと思う。
- (7) グループごとの活動は良かった。予定が調整できる方が活動しやすいと思った。
- (8) 進め方は問題ない。楽しく活動できた。
- (9) 個人的な反省だが、発表のまとめを担当してみてもっと早くに取り掛ければ、グループみんなの意見を取り入れられたのと思った。
- (10) パソコンが各グループに1台くらい必要。最後には何か実績を必ずあげるなど、目標を作らないと空論で終わってしまう。
- (11) テーマが大きいわりに、月1回午前中の月例会では時間が足りない。かといって、みんな忙しいのでこれ以上の時間はなかなかとれないのが現状です。

- (12) 月例会以外の日に、発表前にもう何日か集まって、準備できればと思った。(他のグループはやっていたのかもしれないが。)
- (13) グループごとの活動を始めたのが9月だったのだが、6月くらいから活動にかからないと間に合わなくなってしまう。年末年始にもかかってしまい、忙しかった。
- (14) 3. その他
- (15) 色々なタイプのの人たちと話せたことが自分の成長になったと思う。
- (16) 一年間の活動では、やりきれない部分が多いと思う。
- (17) 発表会に行政側が最初から最後までいて欲しかった。
- (18) 参加人数が少ないと盛り上がらないので、やはり参加が大切。初回は各人気持ちに温度差があるので、入り込みやすい、わかりやすいテーマ提示が必要。個人的には、地域を構成するのは個なので、個のあり方を育てるワークがいいのではと思います。学校で起きている問題は家庭の問題の集大成なので。行政がやっていることなので、最後まで行政が見守る姿勢が欲しい。
- (19) 11月からは、調査したことを冊子にまとめる作業でとても忙しかったけれども、楽しかったです。
- (20) 発表会は緊張して大変だった。何もかもが考えていたようなことではない活動で苦労した一年だったが、何とかやり遂げることができて個人的には満足している。
- (21) 4人だと、1人休んでしまうと3人になり、活動するのに不安になるので大変だった。発表会はすごく嫌で、意見など言えないと思ったのですが、前の方に観客がぜんぜんいなかったの、逆によかったです。
- (22) 推進員の役割が明確でない。最後の報告書は推進員がやるのではなく、課のほうですべきでは？
- (23) お菓子とても美味しかったです。ありがとうございました。(エライ！)
- (24) 月曜日に集まるのはちょっと。なかなか来れる人は少ない様な気がします。今までどおり、金曜日のほうが良いのでは。
- (25) 安全冒険公園を作りたい→予算がなくてできない。
- (26) 実現できないのに、話し合ったり勉強したりするのは必要なのでしょうか？